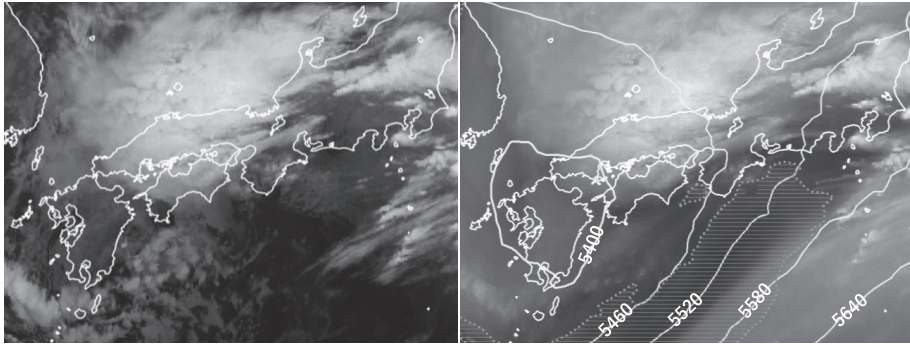




今月のひまわり画像—2020年4月

尾鷲に猛烈な雨をもたらした低気圧

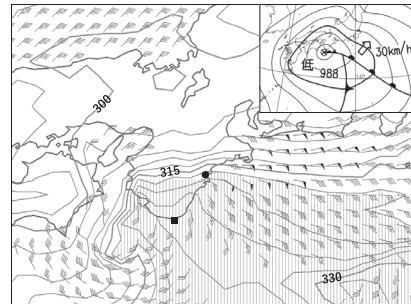


第1図 2020年4月13日02時（日本時間）の西日本付近における赤外画像（左図）と水蒸気画像（右図），右図の実線は LFM（同日00時初期値）の500hPa 面における等高線（60m 毎），ハッチ域は同面の湿数18°C以上の領域。

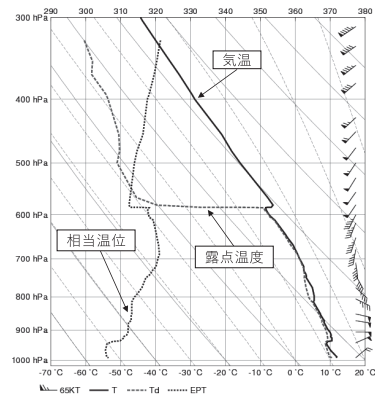
2020年4月13日，低気圧の接近・通過により，三重県尾鷲では同日02時46分（日本時間）までの1時間降水量106.0mm，同日13時20分までの24時間降水量315.0mmを観測し，4月の極値を更新した。第1図は同日02時の赤外画像と水蒸気画像であり，水蒸気画像には気象庁局地モデル（LFM）の500hPa面の高度，湿数18°C以上の領域を重ね合わせた。赤外画像では尾鷲付近に雲頂高度が T_{BB} （等価黒体温度）で約 -31°C （高度約8 kmに相当）の対流雲を確認でき，水蒸気画像では九州付近にある寒冷低気圧の南東～東側に湿数18°C以上の領域にほぼ対応した暗域が見られる。第2図は同時刻の近畿・東海地方における LFM の975hPa面における相当温位及び風の分布図と同日03時の西日本付近の地上天気図である。低気圧前面の尾鷲付近は，975hPa面では相当温位318K以上が流入し，東風と南東風が収束する場となっている。第3図の12日21時の潮岬のエマグラムを見ると，地上～590hPaは湿っており，それより上は非常に乾燥した状態で，下層の気層が持ち上げられると対流雲が発達しやすい状態となっていた。

尾鷲はアメダスの中では平年値の年間降水量の多い順で4位に入る地点で，1時間降水量100mm以上を観測したのは1938年10月の統計開始以降，今回を除いて15回あり，9月と10月が各7回，11月1回と秋に集中している。秋なので気圧配置は台風と前線を連想しがちであるが，この2つが関係した事例は2例しかなく，残りの事例は今回のような低気圧や前線の接近・通過，そして高気圧の縁辺流によるものであった。

（気象庁予報部予報課 原 基）



第2図 第1図と同時刻の近畿・東海地方における LFM（同日00時初期値）の975hPa面の相当温位（3 K 毎，ハッチ域は318K以上の領域），風（30kt（1 kt \approx 0.51m/s）以上を表示，長い矢羽根が10kt），●は尾鷲，■は潮岬，右上図は同日03時の西日本付近の地上天気図。



第3図 12日21時の潮岬のエマグラム。